



町の概要

長瀬町は埼玉県の北西部に位置し、町の中央を縦貫して流れる荒川の両岸に細く開けた町です。

長瀬町の総面積は30.43km²ありますが、そのうち約60%は山林で占められています。また、四方を宝登山(標高497.1m)、不動山(標高549.2m)、陣見山(標高531.0m)、釜伏山(標高538.6m)といった山々に囲まれ、これらの山を源とする沢は、それぞれ荒川に流入しています。

長瀬町は町の全域が、県立長瀬玉淀自然公園区域に指定されています。特に旧親鼻橋から旧高砂橋に至る荒川の両岸は、名勝及び天然記念物保存区域として指定されています。なかでも「岩畳」の広がる長瀬渓谷は、地質の宝庫として貴重な天然資源を誇っています。

長瀬町の産業

古くは農業を中心として発展した町でしたが、明治44年に秩父鉄道が開通すると、商業・工業が発展するのにあわせて観光業が発展してきました。現在では、輸送用機械器具製造業や電気機械器具製造業といった製造業や観光資源を活かした観光産業などの第二次産業及び第三次産業が主体となっています。

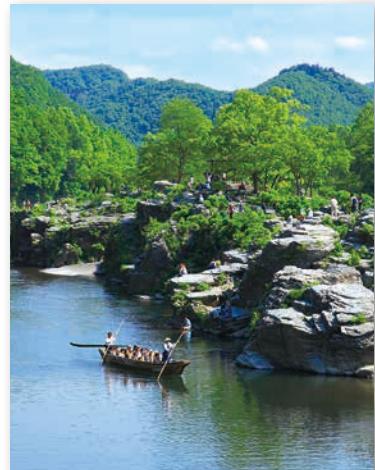
主な立地企業 (順不同)

東洋パーツ(株)、(株)秩父イワサキ、日本イスエード(株)、南州工業(株)、(株)コスマック

地域資源

長瀬の象徴でもある岩畳を中心とした地域は、大正13年に国の名勝及び天然記念物に指定されており、地質学的に貴重な地域であることから「地質学発祥の地」と言われています。

特に岩畠を眺めながらの船下りやラフティングなどの荒川を利用したアクティビティが人気のほか、桜やハナビシソウ、秋の七草、紅葉ライトアップ、ロウバイなど一年を通して様々な見どころがあり、年間260万人を超える観光客が長瀬町へ訪れます。また、平成23年に「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」で一つ星を獲得した寶登山神社は、海外では珍しい神仏習合の形を成しており外国人観光客の注目を集めております。



長瀬の岩畠